

# 組織目標管理シート

年度	平成30年度
組織名	西蒲区社会福祉協議会
組織の方針	住民が地域における福祉課題について関心をもち、福祉活動に参加する住民主体による「お互い様の地域づくり」の実現に向け、関係機関・団体と連携、協働し「地域人材の発掘・育成、活躍の場の提供」を推進していきます。

作成日	平成30年4月25日
修正日	
評価日	平成31年4月24日

No.	目標	指標					主な取り組み内容	目標達成状況 未達成理由	評価	
		項目	H28実績	H29実績	H30目標	H30結果				補足・参考指標
1	出会い・学び・協働を生み出す場づくりを進めます。	男性シニア地域活動応援講座	—	・4回 延べ参加者数38名	・6回 ・活動の場への参加者30人	・5回 ・活動の場への参加者10人	・活動の場：多機能型拠点(ビニールハウス)	参加しやすい趣味的な講座を開催し、修了者への活動の場を提供するとともに、男性参加率の向上及び担い手の育成を進めます。	・趣味的な講座は予想を上回る参加をいただきましたが、次につながる多機能型拠点への参加に対してチラシによる参加依頼するだけで、安心して参加できる取組が無かったため、参加を躊躇される方が多数おられました。	未達成
2		多機能型拠点の整備	—	—	・多機能型拠点の立ち上げ ・研修会1回	・立上げ完了 ・研修会2回	・農業を取り入れた就労支援を考える研修会の開催	男性シニア地域活動応援講座修了者を中心に拠点を立ち上げます。 将来的に引きこもりの方等が、農業を通して、一般の方とふれあいことによるコミュニケーションの能力の向上や就労意欲の向上を目的に就労支援できるよう研修会を開催します。	4/6日にオープンし、男性シニア応援講座参加者を中心に運営団体を設立いたしました。 また、運営団体及び近隣住民を対象に「ひきこもりや障がいを抱える方への支援方法」や「認知症を学ぶ」と題し、研修会を実施しました。	達成
3		地域への出前講座	・5か所	・7か所	・地域座談会参加者10%増	・地域座談会参加者3%増	・1カ所当たりの平均参加者数の10%増	自治会、民生委員、茶の間等、幅広くお声掛けいただき、地域課題に対して何が自分たちで出来るのか、考えるきっかけや活動へとつながるよう開催します。	周知不足のため、依頼される自治会等が少なく、地域座談会への参加に結びつきませんでした。	未達成
4		社会的援護が必要な人を支える仕組みづくりを進めます。	他機関協働による包括的支援体制整備	—	・モデルを1圏域	・他圏域への立ち上げ検討	・体制整備検討会の開催	・他圏域：3圏域	昨年1圏域をモデルとして取り組みを行った結果を基に、他圏域で取組めるか検討いたします。	・4圏域の地域包括支援センターと全区で取組めるか検討を行ったが、既に連携が出来ているため、わざわざ立ち上げず、今まで以上に連携を図って行くことになりました。

取り組みについて(今年度重点的に取り組む内容や目標設定の考え方など)	取り組みの結果について(評価を踏まえた課題分析・方向性など)
<p>◎地域の課題がすべて学習素材となり、地域の課題を話し合い、解決の方法を「共に学び合う」ことが地域力を高め、自らの活動につながり、住民主体の地域づくりにつながるのではないかと思います、地域住民に対し、福祉教育を積極的に進めていきます。</p> <p>◎男性シニアの退職後の閉じこもり予防や生きがいを目的に、参加しやすい趣味的な講座を開催する。また、豊富な経験や能力を活かして「人財」として地域コミュニティの担い手として自主活動グループの結成に努めます。</p> <p>◎福祉の現場では、サービスの利用者本人だけではなく世帯全体で複合的な課題が生じていたり、複雑化して解決の糸口すら、つかみ難い事例に日々直面しており、制度の縦割りを越えてニーズを包括的に受け止め、支援するための地域の体制づくりを早急に進める必要性を、包括から相談があり、今年度モデル的に複合的課題がある相談に対し、他機関協働による支援体制構築会議を行い、区内全圏域に取り組めるか検討していきます。</p>	<p>・福祉教育の推進では、地域の出前講座の周知が足りなく思うように依頼件数が伸びず、結果的に地域福祉活動計画座談会への参加者が目標を達成できませんでした。次年度は、周知箇所及びテーマを絞り込み依頼件数を増やし、自分の地域について関心を持ってもらう方を少しでも増やしていきます。</p> <p>・男性シニア地域活動応援講座では、予想を上回る参加をいただきましたが、次につながる工夫が必要であると痛感いたしました。次年度は、呼びかけるだけではなく、多機能型拠点での実際の活動と運営スタッフとの交流が図られるよう、現場を会場にした講座を開催し、スムーズに参加でき、活動することでボランティア登録につなげていきます。</p> <p>・他機関協働による包括的支援体制整備では、モデル的に実施し全圏域への整備について検討した結果、今後の方向性が見いだせました。新たに構築するのではなく、既存の体制を強化しながら情報共有を今まで以上に行いながら、複雑で複合的課題に連携し解決に向けて取り組みを進めていきます。</p>